

北海道大谷学園連合会相互評価（自主）報告書

1. 評価対象校 帯広大谷高等学校
2. 訪問調査日 2022年3月10日（木） 15：00～15：30
3. 会場 ZOOM会議
4. 出席者 帯広： 小野教頭先生、坪坂事務長
札幌： 西道高校副校長、鈴木高校教頭

帯広大谷高等学校の概要

- ・ 設置者 学校法人 帯広大谷学園
- ・ 理事長名 桂井 智善
- ・ 校長名 大西 正宏
- ・ 開設年月日 1923年3月
- ・ 所在地 北海道帯広市西19条南4丁目35番1号
- ・ 設置学科 普通科
- ・ 入学定員 総定員 260名
(文理コース70名 普通コース190名)
- ・ 教職員数 81名 専任 55名 非常勤 26名

調査結果

今回は、ZOOM会議を使つての限られた時間内で、校務運営を中心にお話しを伺いました。

〔分掌〕

まず初めに感じたことは、自己評価報告書が大変簡潔にまとめられていて、無駄のない校務運営が行われていると感じました。小野教頭先生が、教職員は大変多忙なため、できる限り業務をスリム化し無駄をなくしているとおっしゃっていましたが、教員も働き方改革が求められている世相ですので、とても重要な観点であると思います。

校務運営に関して、校務運営組織図は本校に比べシンプルで、機能的な構成を成していると感じました。多数の委員会やプロジェクトチームが各分掌との連携し、円滑な校務運営に、十分に機能していることがうかがえます。

〔入試〕

帯広大谷短期大学への進学では、他校よりも指定校推薦の枠が多く、入学金全額免除の特別奨学金制度があるとうかがいました。出口保証がしっかりとできていることが、多くの中学生が帯広大谷高等学校への入学を考えることにつながっていると思いました。長い年数をかけて地域から見られている評価を分析し、受験生を増加させていった努力は素晴らしいと思いました。部活動に力を入れることは中学生の需要を満たし、ある程度の生徒募集にはなるが、それだけでは頭打ちになってしまうようなことをおっしゃっていましたが、まったく同感であります。進学実績向上に向け、進路指導にも重点を置いていることが、常に高い志願者数を維持し、生徒募集に直結していると思います。

〔まとめ〕

大変多忙な先生方が夜遅くまで進学実績向上に向けて頑張っていられるのは、小野教頭先生が、できる限り業務をスリム化し無駄をなくしていこうとされているからではないでしょうか。

今回のZOOM会議で得たことをこれからの校務運営の参考にさせていただきます。お話しを伺いました小野教頭先生には、多くの示唆をいただき誠にありがとうございます。感謝申し上げます。